

下大和田谷津田だより

2005年9月号

第67回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」報告

8月7日 晴れ

大人も子どもも暑さにめげず、谷津を一巡しました。谷津田の仲間も元気でした。メダカは赤ちゃんから大きいまで田んぼや水路を泳ぎまわっていました。バッタの仲間も元気に跳ね回っていました。ナガコガネグモは丸々と大きくなっていました。林縁ではオニヤンマが休んでいました。林のブランコに乗ったらカブトムシが落ちてきたりして大喜びでした。午後からは森林インストラクターの山田さんの解説で斜面林の樹木調べをしました。観察記録には午後に見たものも記載してあります。

開花植物：ヒメジョオン、カントウヨメナ、ハキダメギク、ホタルブクロ、ヘクソカズラ、アゼナ、セリ、コケオトギリ、シロツメクサ、エノコログサ、シマスズメノヒエ、ツククサ、オモダカ、ヘラオモダカ、マツカサススキ、タラノキ。（古代米の田んぼにはトチカガミが盛り上がるように繁茂していました。）

昆虫：キアゲハ、クロアゲハ、アオスジアゲハ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、スジグロシロチョウ、コミスジ、ヒメウラナミジャノメ、キイロスズメ幼虫（ヤマノイモにつく）、タケカレハ幼虫、オオミズアオ、カブトムシ、カナブン、コクワガタ、クワカミキリ、ミヤマカミキリ、ヨツボシオオキスイ、ゲンゴロウsp、オオヒラタシデムシ、ショウリウバッタ、ヒメギス、コバネイナゴ、ツマグロイナゴモドキ、オオカマキリ仔、バッタ・キリギリス類幼虫多、シオカラトンボ、ノシメトンボ、マコタテアカネ、ウスバキトンボ、オニヤンマ、アメンボ、シマアメンボ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ヒグラシ、スベバハゴロモ、アオバハゴロモ、ベッコウハゴロモ、アミガサハゴロモ。

野鳥：ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ハシブトガラス。

その他：ナガコガネグモ、ジョロウグモ、オオシロカネグモ、コモリグモsp、メイオウイロハシリグモ脱皮殻、ザリガニ、ミスジマイマイ、ヒダリマキマイマイ、マルタニシ、ニホンアカガエル、ヤマカガシ。

確認した樹木：サワラ、スギ、ヒノキ、トウジュロ、アオキ、アラカシ、イヌツゲ、カクレミノ、シラカシ、シロダモ、ネズミモチ、ヒサカキ、カラタチバナ、マンリョウ、ヒラギ、アカメガシワ、イヌザンショウ、イヌシデ、エノキ、クヌギ、クリ、ケヤキ、コナラ、コブシ、ゴンズイ、サワフタギ、サンショウ、タラノキ、ヌルデ、ハリギリ、ニワトコ、ムクノキ、ムラサキシキブ、ヤマグワ、ヤマザクラ、ヤブムラサキ、キズタ、ツタウルシ、フジ、ミツバアケビ、アズマネザサ。

（参加者：大人16人子ども5人；報告：網代春男）

第51回谷津田プレーランド・プロジェクト(YPP)

「お米の守り神、かかしを作ろう！」

8月20日 晴れ

まずは恒例のモミ数カウントの収穫量調査。炎天下、モミ、穂、そして株を数えました。ひとつの穂につくモミの数がこれまでで一番多く、今年は豊作が期待できそうです。かかしは風が心地よい林の中で作りました。全部で6つ。思い思いにユニークなかかしができあがり、さっそく田んぼに立てました。かかしの顔ぶれはホームページでご覧になれます（<http://yatsuda.2.pro.tok2.com/report.html>）。去年はスズメたちにずいぶんとサービスしてしまったので、キラキラする鳥よけテープも田んぼに張り巡らしました。大勢のかかしも見守ってくれる田んぼはずいぶんとにぎやかで、収穫に向けて準備万端の風景です。午後は林の中で薪割りや木や竹の工作、カブトムシ遊び、そしておしゃべりをしてのんびり過ごし、ヒグラシの音がにぎやかになる頃、田んぼを後にしました。暑い中、参加された皆さん、お疲れさまでした。

（参加者：大人12人・小学生3人・乳幼児1人、報告：高山邦明）

下大和田季節のたより

8月14日 早朝の谷津田で今年生まれの幼鳥を交えたたくさんのモズが鳴き、イネの間では丸々太ったナガコガネグモやカマキリが餌をねらう。黒米が出穂（高山）

8月17日 田んぼにギンヤンマが飛翔、トチカガミが開花。林では枯れたシラカシにタマムシが産卵。サトキマダラヒカゲ、ヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメ、ムラサキシジミなどがたくさんいました。アオスジアゲハがシロダモの葉に産卵。クヌギのカブトムシはメスばかり。クロアゲハ、モンキアゲハ、ルリタテハの姿も（網代・田中）

8月20日 秋のジョロウグモの幼体が姿を現す。畦ではタカサブロウ、イヌタデ、田んぼにはコナギの花も（高山）

8月27日 台風の影響で一部のイネが倒伏、倒れたかかしもあり、台風の激しさを実感（平沼・高山）、枯れたシラカシに多数のタマムシが集まって産卵（田中）

朝晩はずいぶん涼しくなってきました。田んぼではモズが鳴き、畦では秋の草花が次々と花を開きはじめました。実りの秋へ季節がどんどん進んでいるのを実感します。

高山邦明